

パネルディスカッション（早稲田大学におけるコアファシリティ化への取組み：副総長 笠原博徳）

1. 研究教育設備・機器のコアファシリティ化に向けた現在の取組み

- ◆ 理工系組織を中心に実施されてきた研究教育設備・機器の共用化を機関全体へ（自動化・遠隔利用）
- ◆ 機関としての研究教育基盤の整備方針としてランドデザインを策定
- ◆ 学内インフラの整備充実（共用設備・機器の新規導入と更新、研究者と学生が利用できるオンライン予約管理・料金請求システムの構築）
- ◆ 技術職員におけるキャリアパスの充実（例、リサーチイノベーションセンター事務長、研究戦略センター事務長、情報企画事務部長は技術職員出身者）

2. 現状の課題（複数キャンパスにおける研究教育設備・機器の管理運用）

- ◆ 研究教育施設・機器の共用化を担う技術職員の人数不足
⇒現状では理工系キャンパスに集中的に配置されている
- ◆ 遠隔地キャンパス・学外からの利用者を考慮した場所の確保
⇒試料の前処理などを行うための場所が不足



福岡県北九州市
・北九州キャンパス（情報生産システム分野）

東京都新宿区

- ・早稲田キャンパス（人社系分野）
- ・西早稲田キャンパス（理工系分野）
- ・戸山キャンパス（文学分野）

埼玉県所沢市・本庄市

- ・所沢キャンパス（人間科学・スポーツ科学分野）
- ・本庄キャンパス（環境・エネルギー分野）

3. 今後の展開方策

- ◆ 研究教育設備・機器の自動化・遠隔化
⇒ポストコロナを見据えつつ、遠隔地キャンパスや学外からの利用を促進
- ◆ データ活用に関する施策
⇒データマネジメントポリシーの策定、複数機関が利活用できる計測データの標準化・データ変換に向けた取組み
- ◆ 技術職員の確保・育成
⇒複数キャンパスに設置されている研究教育設備・機器の共用化促進に向けた技術職員の確保・育成



<技術職員に関するHP>

<https://tmd.sci.waseda.ac.jp/tech/>

- 主要業務
- 活動記録
- キャリアパス
- 職員採用情報 など